

## 障がいのある方が地域で暮らし続けるために

### 取組みの経緯・内容

#### “まずはできることから、”

まつぼっくり事業所の足立博文さんは、地域における公益的な取組が責務化された当時、小さな事業所で何ができるのか苦慮されたそうです。鳥取県内の社会福祉法人が連携・協働して地域の生活課題を解決していこうと立ち上げられた「えんくるり事業」に参画することとしましたが、実際に社会福祉法人としての使命を果たしているのか自問自答の日々が続きました。

そうしたなか、境港市では令和3年度より地域と学校が連携して子どもを育ていこうとコミュニティスクールの取組みが始まりました。そこで、各学校に配置された地域学校コーディネーターから配布されたチラシに掲載されていた記事に、地元の小学校で下校時にあいさつ・見守り運動を行っているとの報告があり、「こうした取組みに協力する形であれば、自分たちでもできそう。ひとまずやってみよう。」とコーディネーターにお願いし、取組みが始まりました。

はじめは利用者と一緒に校門に立って淡々とあいさつをしていましたが、子どもたちが喜ぶことをしようと、事業所の行事などで使っている仮装の衣装を着て校門に立つことにしました。時節に合わせたハロウィンや鬼の衣装を着た利用者の方たちの姿は子どもたちの興味を引き、**事業所や利用者の方を知る機会**となりました。また、利用者や職員にとって、子どもたちに喜んでもらえることが**励み**になっています。

このことは、地域にも思わぬ波及効果が生まれました。仮装をしていたことで、小学校の前を車などで通りかかった地域の方の目にも留まったようで、事業所に「そちらの事業所が小学校であいさつをされているのを見かけた。障がいのある方が地域の中に出て、小学生と交流していることに驚いた」との声があり、地域の方にも**事業所を知ってもらうきっかけ**になっています。

#### “活動が地域に見えるように、”

あいさつ運動で学校との関係ができたことで、何か協力できることはないだろうかと考え、特にコロナ禍で生活に困っている子育て世帯などの支援につながればと、令和4年度から事業所で製造・販売している焼きいもを無料で配布することを計画しました。小学校で焼きいもの無料チケットを配布し、子どもたちに事業所まで食べに来てもらう形態を考えましたが、子どもが歩いて来るには課題が多く難しいと言われました。コミュニティスクールの会長から、学童クラブで配布してみないかとの提案があり、学校に出向いて直接子どもたちに手渡しすることにしました。あいさつ運動で学校との関係ができていたからこそこの取組みです。

学童クラブでは1年生から4年生までの約40人ほどの



子どもたちが集まり、みんな喜んで焼き芋をほおばっていたそうです。なかには焼き芋の配布があると聞いて、いつもは利用していない子どもたちも集まってきたそうです。

「あいさつ運動とおいしい焼き芋という点と点が、子どもたちの中で線につながり、事業所に対する理解が進んだのではないかと足立さんは感じています。



こうした取り組みが地域に浸透していく中で、ことぶきクラブ（老人クラブ）や小学生とのいもほり体験を通じた交流の機会や、中学校でのキャリア学習の場で障がいに関する話をする機会が増えました。

「子どもたちが暮らす地域のなかに障がいのある方が暮らしていて、そうした方たちが通う事業所があるということをもまずは知ってもらいよい機会となっています。理解を深めてもらい、障がいのある方も暮らしやすい地域につながっていけば。」と将来に目を向けながら取り組みを続けています。

## “普段の活動を地域づくりにつなげる”

小学生に配付している焼き芋の原材料となるさつまいもは、市内に点在する耕作放棄地を活用して栽培しており、地域の課題解決に向けた取り組みとなっているとともに、利用者の活動の様子を地域の方に知っていただく機会ともなっています。

令和2年度から事業所前で焼き芋の販売を行っていますが、あいさつ運動や学童クラブでの焼き芋の配布などの取り組みにより、事業所への理解が進み、完売になることが増えました。

「地域における公益的な取組を進めたくてもなかなか取り組めないという場合でも、まずは無理なく既存の取り組みに協力することから始めることも必要だと思います。そうした取組みを普段の活動とつなげながら、地域の方と自然にふれあえる形で取り組むことで、地域住民の法人・事業所への理解が進み、地域の中の事業所として地域の方に認知されてきたと感じています。そして、こうした理解が地域に広がれば、障がいのある方でも暮らしやすい地域づくりにつながるのではないかと思います。」



## 取組みのポイント

- ・事業所単独ではなく、既存の取り組みに協力する（のっかる）ことでまずは始めてみる。
- ・普段の事業所での活動をベースにして無理なく取り組む。
- ・利用者の姿や活動が、自然な形で地域の方の目に触れるように取り組む

## 取組みの成果

- ・地域に利用者や事業所を知ってもらうことができ、障がいに対する理解を図るきっかけとなっている。
- ・障がいや事業所の理解が進んだことで、利用者が製造・販売する商品の売り上げが伸び、工賃のアップにもつながっている。

社会福祉法人 **まつぼっくり**

本部所在地／境港市岬町45-3

電話番号／0859-21-8561

FAX 番号／0859-21-8562

法人HP／<http://www.matubokkuri.jp/>

他に実施している公益的取組み：

こども食堂への協力、実習生の受入れ

